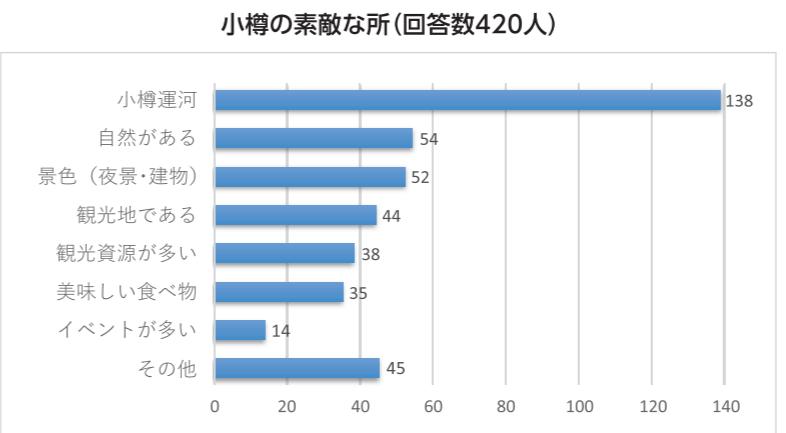


Q. 小樽の素敵な所は？

小樽運河や夜景などの回答が多く、観光都市としてのイメージが浸透していることがわかります。歴史的建造物などの観光資源をさらに知ることで、より小樽に対して愛着が深まるものと考えます。また、「小樽市は市制100年という長い歴史があり、観光地として盛り上げていこうとしているのが素敵です」という地元愛を感じる回答が印象的でした。



Q. 大人に伝えたいことは？

- ① 小樽には良い観光地があるから、もっと広めて欲しい。
- ② 通学時に危ないので雪を道路に投げないで欲しい。
- ③ 通学路にカラスがいて怖いのでカラス対策をして欲しい。
- ④ 札幌から若者が来るような魅力のあるものを作つて欲しい。
- ⑤ 公園の遊具を増やして欲しい。
- ⑥ 若い人が少ないと、若者向けの街にして欲しい。

■ アンケートを通じて

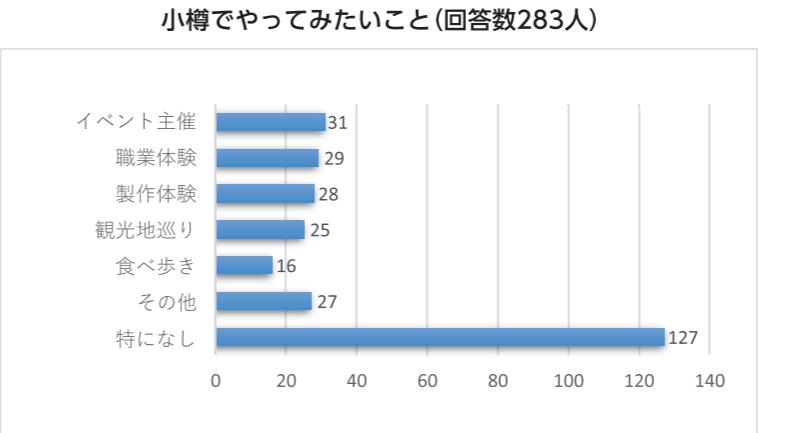
青年部では、今回のアンケート調査結果を各小中学校にフィードバックしたところ、先生から「こんなに小樽のことを考えている子供達がいるんだと驚きました」と感想をいただきました。

子供達の回答からも自分の住んでいる街を良くしたいとの想いが伝わってきましたが、好きだけど小樽に住み続けるのは難しいと思つていてもわかりました。

小樽の歴史や街の魅力を伝え、「小樽すごいね！」を子供達に感じてもらう、郷土愛を育む取り組みが必要です。

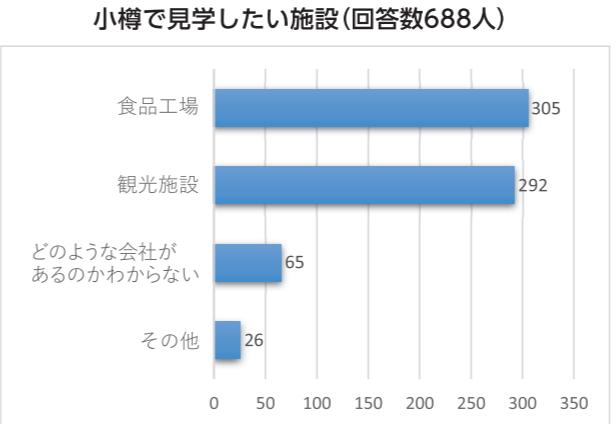
Q. 小樽でやってみたいことは？

公道を利用したF1レースや小樽の坂を利用した「そり滑り大会」など、小樽の地形を利用したイベントが多く挙げられていました。市内の職業体験は、親や子供達に大変人気があり、実際に職業体験で影響を受け、デザイナーの道へ進んだ子供もいるそうです。この他、未回答が約60%、「特になし」と答えた子供達は18%で合わせて約80%弱は、具体的なものが浮かばなかつたようです。



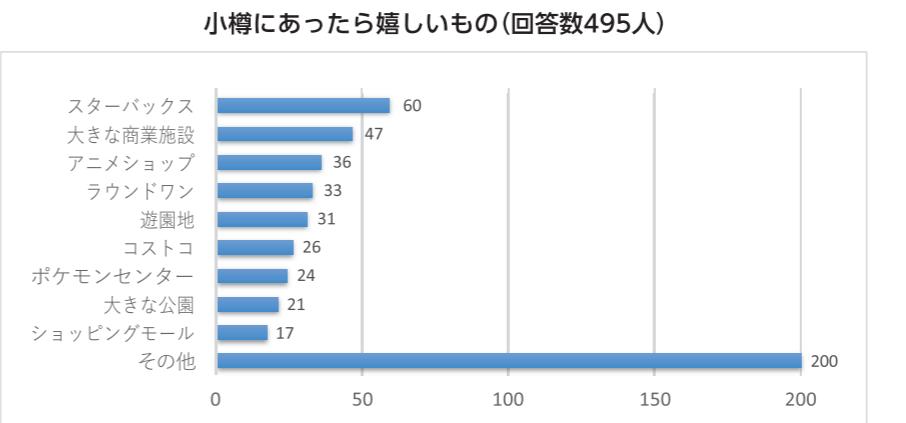
Q. 小樽で見学したい施設は？

食品工場では、かま栄やなると等を希望する子供達が多く、中には自分達に直接関わりの深い、給食センターを希望する回答もありました。「小樽にどのような会社があるのかわからない」という子供達が10%おり、新型コロナの影響で施設見学の機会が失われたことも要因に挙げられます。知る機会を設けることで、自分達が住んでる街の会社に興味を持つてもらえるのではないかと考えます。



Q. 小樽にあつたら嬉しいものは？

子供達が期待するお店として、市内にはない有名店の回答が多くありました。また、商業施設や遊園地、大きな公園など、屋内外で遊べる場所を希望していることもわかりました。



自然体験プログラム(火おこし体験)

■ 子育て世代との意見交換

この調査結果について、子育て中の親御さんと意見交換しました。

親からの主な意見

- ① 小樽の美しい街並を学んで欲しい。
- ② 地元で子供の頃から心に残る体験をさせたい。
- ③ 直接体験することが何よりも記憶に残るので、職業体験の機会を増やして欲しい。
- ④ 他の地域に負けない魅力があることを伝えていく事が必要。

■ 意見交換を通じて

小樽の地域資源や自然環境などを減つたので、交流の場を増やして欲しい。

- ⑤ スマートフォンの普及で1人の時間が増え、人と接する機会が減つたので、交流の場を増やして欲しい。
- ⑥ コロナが落ち着き、インドアからアウトドアに行動転換して、小樽を歩いて見てほしい。

■ 当所の取り組み

小樽の地域資源や自然環境などを減つたので、交流の場を増やして欲しい。

- ⑤ スマートフォンの普及で1人の時間が増え、人と接する機会が減つたので、交流の場を増やして欲しい。
- ⑥ コロナが落ち着き、インドアからアウトドアに行動転換して、小樽を歩いて見てほしい。



「知産志食しりべし」食育授業

当所では平成22年より、人口減少対策、雇用創出を大きな柱にプロジェクト活動を進めてきました。この課題は一朝一夕に実現できるものではなく、粘り強く長期的な視野で取り組まなければなりません。子供達には、地元で採れる食材やその大きさなどを知つてもらう、「知産志食しりべし」食育授業を行なっています。

今では、キャリア教育の一つと位置付けられ、市のまちづくりや人づくりの政策を後押しする事業となっています。